

ライフル射撃専門部・熱中症対策ガイドライン

危機管理委員名 村田 こずえ
(所属校名) 栃木県立真岡北陵高等学校

熱中症対策

事前の対策

- ・ 気象庁が発表する情報や環境省熱中症予防情報サイト上の暑さ指数等の情報に十分に留意し、気温・湿度などの環境条件に配慮した活動が実施できる競技準備を行い会場を整える。その際、活動の中止や延期、見直し等柔軟に対応検討できるようにしておく。
- ・ 気温など環境により、熱中症対策をはじめ、発汗等による着替えの準備・まめな水分補給・予め十分な睡眠と食事(栄養)を取っておくなど、各自体調を十分に管理する(しておく)ことを顧問をはじめ選手補助員に周知徹底させる。
- ・ 熱中症になった時の対応を考え、クーラーや保冷剤など体を冷やせるもの準備しておく。

大会/試合時の対策(当日の対応)

- ・ 大会当日は、諸機関より情報を確認して事前の熱中症対策を行う。
- ・ 各参加校の顧問は、選手1人1人の体調管理を把握し、熱中症予防を徹底させる。
- ・ 選手に水分補給を徹底させる。顧問は飲み物を持たずに試合に臨むことを許可しない。
- ・ 熱中症の兆候を自覚した場合、射撃競技を中断するよう選手に熱中症への配慮を周知徹底させる。
- ・ 顧問や選手・補助員は、射場に保冷剤など体を冷やせるものを常に用意し、選手が体調不良を訴えた際にいつでも体温を下げられるように準備をしておく。
- ・ 競技中は選手・補助員を選手1人につき1名以上の射座後方に待機させ、選手の健康状態の観察を行う。問題がある場合には、射場役員や顧問に連絡を速やかに行う。また、運営側の発生後の的確な対応はもとより会場の環境把握や競技前の注意喚起などを徹底する。